

(ア) 重点指導事項

高等学校学習指導要領「現代文B」

イ 文章を読んで、書き手の意図や、人物、情景、心情の描写などを的確にとらえ、表現を味わうこと。

(イ) 教材の選定

小説を明確な根拠をもった上で自由な読みをするために、教材としては、『鼻』『羅生門』の二つの作品を用いる。

生徒同士の交流だけでは、類似した読みが多くなる可能性があるため、1年次に学習した『羅生門』を用いて多様な読みができることを示す。また、『鼻』そのものを用いて読みの視点を示すと、生徒の多様な読みが保障できないという予想もできる。広島大学附属学校共同研究機構研究紀要において『羅生門』を「境界の物語」として読む学習指導が提示されている。「境界の物語」という読みの視点は1年次には学習していないことと、同一作者による同時期に書かれた『羅生門』を用いて多様な読みができることを示すことで、生徒が『羅生門』の学習で理解したことを『鼻』の読みに生かしやすいと考えた。

(ウ) 学習形態

個人で読み考えたことをグループやペアを組んで学習させる。読みが広がり、深まり、小説の読みは一つしかないと考えてしまいがちな生徒にとって、他者のものの見方、感じ方、考え方を学ぶことで多様な読みを理解できると考える。

また、各自で考えた「その後」を自分勝手な読みとしないためには、他者を説得できる根拠が必要となる。そのために、グループやペアでの学習において他者の存在を意識させ、根拠を明確化させる。明確な根拠を示すことは自分勝手な読みを許さず、叙述に基づいた読みにつながるかと考える。

(エ) 学習内容

『鼻』において、各自で明確な根拠を示しながら「その後」を考える。生徒は、「その後」を考えるために、小説の人物、情景、心情の描写などを主体的に捉えて読むだろうと考える。その上で、グループとなり、それぞれの「その後」を読み合う。グループの中で、生徒による様々な「その後」を読み、多様な読みができることを理解すると考える。

さらに、1年次に学習した『羅生門』を用いて、既習の読みの視点とは異なる読みの視点を学ぶ。生徒はこの学習を通して、多様な読みができることを理解するであろうと考える。

その上で、グループで読み合った学習と『羅生門』における学習を参考にしながら、「その後」を再考する。

ペアを組み、初発の「その後」と再考した「その後」を読み比べ、評価する。評価する活動をすることで、「その後」を再考する際に、初発の「その後」とは異なる視点での読みをするようになるのではないかと考える。また、評価されることを意識すれば、小説を俯瞰的に読み、人物、情景、心情の描写などをよりの確に捉えようとするのではないかと考える。

(オ) 単元の目標

○ 文章を読んで、書き手の意図に興味関心をもち、表現を味わおうとする。	(関心・意欲・態度)
○ 文章を読んで、書き手の意図や、人物、情景、心情の描写などを的確にとらえ、明確な根拠をもって読むことができる。	(読む能力)
○ 文章の内容に応じた表現の特色を理解する。	(知識・理解)

(カ) 単元の評価規準

関心・意欲・態度	読む能力	知識・理解
①書き手の意図に興味関心をもち、表現を味わおうとしている。	①書き手の意図を叙述に即してとらえている。 ②人物、情景、心情の描写などに基づきながら、明確な根拠をもって読んでいる。	①文章の内容に応じた表現の特色をとらえている。

(キ) 指導計画

次	時間	主な学習内容・活動	指導上の留意点
1	1	<div style="border: 2px solid black; padding: 10px; width: fit-content; margin: 0 auto;"> 文章の続きを考える </div>	
		①教師の範読を聞きながら『鼻』を黙読する。 ②結末の「その後」を個人で考える。	・文章の表現の特色を確かめられるようにする。 ・「その後」を考える際に、本文中の表現を用いた根拠をもつよう助言する。
	2	①前時間の続きとして、結末の「その後」を個人で考える。 ②グループになり、個人で考えた「その後」を読み合う。	・「その後」を考える際に、本文中の表現を用いた根拠をもつよう助言する。 ・同じように小説を読んでも、様々な「その後」が考えられることを理解させる。 ・読み合いを通して、自分勝手な読みをしないためには、明確な根拠が必要なことを理解させる。
2	1	<div style="border: 2px solid black; padding: 10px; width: fit-content; margin: 0 auto;"> 『羅生門』を「境界の物語」として読み直す </div>	
		①教師の範読を聞きながら『羅生門』を黙読する。 ②『羅生門』を「境界の物語」として読むことができることを学ぶ。	・文章の表現の特色を確かめられるようにする。 ・新しい視点を学び、『鼻』の読みに生かせるようにする。

	2	①『羅生門』と『今昔物語集』卷二十九第十八話「羅城門登上層見死人盗人語」を読み比べながら「境界の物語」として読む。	・新しい視点を学び、『鼻』の読みに生かせるようにする。
3	1	<div style="border: 1px solid black; padding: 10px; width: fit-content; margin: 0 auto;"> <p>再度『鼻』の「その後」を考える</p> </div>	
		①前次までの学習を生かして、再度『鼻』の「その後」を考える。	
	2	①初発の「その後」と再度考えた「その後」を生徒同士で交換し、読み比べ評価する。	<ul style="list-style-type: none"> ・評価を通して、文章の表現の特色を確かめ、根拠を明確にすることを意識させる。 ・評価する際に、表現そのものではなく、「その後」の内容を評価するよう助言する。
4	1	<div style="border: 1px solid black; padding: 10px; width: fit-content; margin: 0 auto;"> <p>『鼻』を「終わりのない物語」として読み直す</p> </div>	
		①いくつかの課題を考える。 <ul style="list-style-type: none"> ・内供が気に病んでいることは何か。 ・周囲の人々が抱いている気持ちはどのようなものか。 ・最後の一文である「長い鼻を明け方の秋風にぶらつかせながら。」という表現の効果について考える。 	<ul style="list-style-type: none"> ・叙述に即して考えるようにする。 ・課題を考える際に、明確な根拠をもつよう助言する。